

製品名: TAAR6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18591**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	TAAR6 TA4 TAR4 TRAR4
別名	
遺伝子 ID	319100.0
SwissProt ID	Q96R18
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 190~270

背景

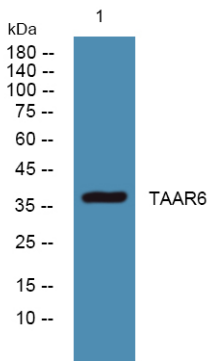
この遺伝子は、7回膜貫通型 G タンパク質共役受容体をコードしており、内因性微量アミンの受容体として機能すると考えられます。この遺伝子の変異は統合失調症と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2010年2月]機能: オーフアン受容体。微量

アミンの受容体となる可能性があります。微量アミンは、哺乳類の組織中に極めて低濃度で存在する生体アミンです。一部の微量アミンは、無脊椎動物において神経伝達物質としての役割が明確に定義されていますが、脊椎動物において真の神経伝達物質として機能する程度は依然として不明です。微量アミンは、未だ十分に解明されていない様々な生理機能に関与していると考えられます。類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。組織特異性: 様々な脳組織や胎児肝臓で少量発現していますが、小脳や胎盤では発現していません。脳では、基底核、前頭皮質、黒質、扁桃核、海馬で同程度の発現レベルが見られ、海馬での発現が最も高く、基底核での発現が最も低い。

研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



SH-SY5Y細胞溶解液のウェスタンブロット分析、TAAR6 ウサギポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、4°で一晩